

あさカジャ Vol.6

アンニョンハセヨ！

韓国水原市（スウォン）滞在中の湯浅です。

少し前の話になりますが、8月は旭川からいろいろな方々が訪韓されました。

今回は、皆さんの活動等の様子についてお伝えしたいと思います！

旭川市・水原市青少年交流

姉妹都市である旭川市と水原市では、毎年高校生同士の青少年交流を行っています。

多くの方々から応募をいただき、今回は、8名の高校生が交流学生として選ばれました。交流活動は年2回あり、両市の学生が互いに訪問し合い、現地で交流やホームステイをします。8月は、旭川市の学生たちが水原市を訪問し、4泊5日で活動が行われました。

初日は、水原市へ到着した旭川市の学生の皆さんを水原市の交流学生とその御家族が迎え、対面式が行われました。初めこそ緊張している様子の学生の皆さんでしたが、対面式が進行していくにつれて表情も柔らかくなっていったように見えました。対面式終了後、旭川市の学生の皆さんは水原市の学生の家に行き、ホームステイが始まりました。



はるばる旭川市からやって来た学生の皆さん、結構疲れているのではないかなと思っていましたが、翌日に聞いてみると、早速夕食後にパッピンス（韓国式かき氷）を食べに行った学生や、ノレバン（カラオケ）に行った学生もいたようです！

さて、対面式翌日から交流が始まり、キム・ヒョンス水原市第一副市長のもとを表敬訪問したり、水原市内の三一高等学校を訪問したりしました。三一高等学校では、お菓子作りをしたり、両市の学生が互いの学生生活についてまとめた内容を発表し合ったり、練習してきたダンスや歌を披露し合いました。旭川市の学生たちは、韓国へ来る前にみんなで集まって練習する時間がなかったと言うものの、とても上手にダンスを披露していましたよ！



そして、その他には、Kビューティー体験（パーソナルカラー診断やパック作り）や韓服体験等も行いました。特に、それぞれが好みの色やデザインの韓服を選び、選んだものを着て世界文化遺産である水原華城を散策する時間は、皆さんとても楽しそうでした！

旭川市の学生の皆さんが帰国する日、寂しさから泣いている学生もいて、短期間でとても仲良くなったんだなと感じました。

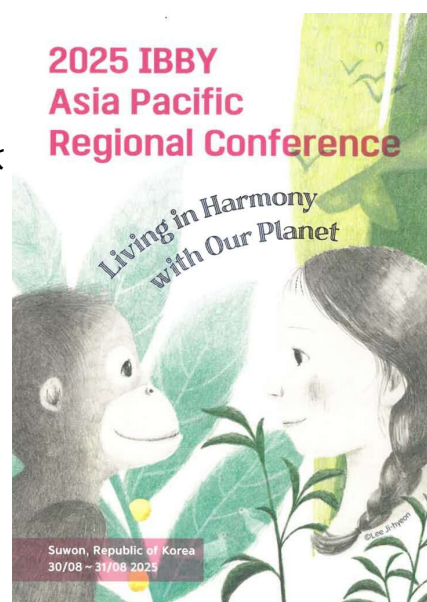
ただ、次は今回交流した水原市の学生の皆さんが旭川市に来て交流を行う予定があります！

学生の皆さんには、再び共に楽しい時間を過ごし、いい経験・思い出をたくさん作っていただきたいと思います！



絵本作家・あべ弘土さんの来訪

「あらしのよるに」や「どうぶつえんガイド」等の著者で、旭川の絵本作家であるあべ弘土さんが、国際アンデルセン賞にノミネートされ、水原市で開催されたアジア・パシフィック地域大会に参加されるため韓国へいらっしゃいました。



「国際アンデルセン賞」は、1953年にIBBY（国際児童図書評議会）が創設した、世界で初めての子どもの本の国際的な賞で、「小さなノーベル賞」とも言われています。あべさんはこの賞の画家部門でノミネートされ、基調講演等を行いました。

大会自体は自由観覧ではなく、講演を聞くことができませんでしたが、大会前日に水原市と同じ京畿道のクンポ市にある絵本図書館「クムマル」を視察されとのことで、わたしも同行させていただきました。

この図書館はかつて貯水池があった場所に建てられており、自然から良質な水をくみ上げる貯水池のように、世界中から良質な絵本を収集・貯蔵・流通させて読者の心を豊かにすることを目的としているとのことです。



施設は様々な絵本があるだけでなく、
当時貯水池として使用していた排水管
を残して見学できるようにしていたり、
施設内の床を敢えて濡れているような
質感にして水の中にいるような造りに
していたり、いろいろな工夫がされ
ていて施設自体も見ごたえのある構造になっていました！



こちらの施設に置かれている世界中の絵本の中に、あべさんの作品
もありました。印象的だったのは、あべさんが施設を訪問すると職
員の皆さんが、図書館に置かれているあべさんの作品にサインを求
めたり、展示を見ている際にあべさんの感想や意見を食い入るよう
に聞いていたことです。旭川市の絵本作家であるあべさんが、韓国
でも有名な作家であり、作品が愛されているということを強く感じ、
とてもうれしく感じました！



あべさんがノミネートされた国際アンデルセン賞は、2026年に受賞者が発表される予定です。ノミネートされたこと自体非常に名誉ある事ですが、受賞されることを心より祈っております！

🏆日韓親善サッカー交流

旭川市と水原市が姉妹都市協定を結んだ1989年より、日韓親善サッカー交流が始まりました。隔年で行うこの交流は、前は旭川市で実施され、今回18回目の交流は水原市で行われました。小学生・中学生が対象ですが、学生はサッカーの試合だけではなくホームステイも行い、また指導者によるサッカーの試合等の交流も行われ、両国の文化・スポーツ交流を目的としています。

今回の交流が行われたのは8月末、韓国はまだまだ暑い時期で、多くの水や果物、テントが用意され、最大限の暑さ・水分対策は行われていましたが、体調を崩してしまった旭川市の選手もいました。しかし、そこは普段教職をされている指導者の方々や水原市の指導者、運営の方々の迅速で冷静な対応により大事には至らず、さすがであると感じました。

選手・指導者の皆さんは、暑さ対策をしつつ、サッカーを通じて楽しんで交流をされていたのが印象的でした。

旭川市と水原市が姉妹都市となった年から、この交流が始まってい



るとのことで、非常に意義深い交流だと感じました。

このようなスポーツの交流を通じて、選手の皆さんが、国際交流に関心を持ったり、異文化に触れるきっかけになっていればうれしいですね！



それでは、また次の回で。

ト マンナヨ ✨ ✨ （また会いましょう）

